

社会福祉法人小平市社会福祉協議会  
小平市立障害者福祉センター  
東京都福祉サービス第三者評価結果報告書

平成 20 年 12 月

特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク

# 評価結果報告書

(全体の講評)

《全体の講評》

身体障害者更生施設(肢体不自由者)

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	新体系に向けた意欲的な新サービス開発と開かれた施設づくりと地域資源の活用がなされている
	内容	当事業所は会議室にとどまらず音楽室、パソコンルーム、浴室などの諸施設を地域に開放し広く利用を呼び掛けている。「日中一時支援」や「緊急一時保護」などのサービスを提供する他、市内の保育園を巡回して言語相談訓練を行い早期発見と療育へつなげる取り組みや市内の学校の体育館を利用したスポーツレクリエーション教室開催とスポーツボランティアの育成を行うなど、施設内にとどまらず、外部社会資源も活用した意欲的なサービスの開発と提供が行われている。また、各種団体の相互交流を深めるため地域懇談会を開催している。
2	タイトル	パワーポイントを活用したわかりやすい説明の工夫をしている
	内容	サービスの開始に当たって利用者等に契約内容・基本的ルール・重要事項・活動・支援状況等について十分な理解の上で同意を得るため、利用のためのパワーポイントでパソコンによる視覚的手段を用いた説明を行っている。できる限り内容を理解して欲しいという願いとサービス提供者としての説明責任を果たしていくという姿勢が感じられ、評価できる取り組みである。
3	タイトル	利用者個々の意向を反映した自立支援に取り組んでいる
	内容	事業所は、障害者自立支援法により新体系へ移行し、生活介護事業と自立[機能]訓練事業のサービスを提供している。個別支援計画は、生活介護では、利用者や家族等の意思を尊重し、個々の利用者のその人らしさを大切にした支援に留意している。また、自立[機能]訓練では、18ヶ月という限られた期間の中で、サービス終了後の生活状況も見据えた支援内容を検討し行っている。いずれも、個々の利用者の把握に努め、目標に近づけるよう利用者とともに取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員に自己啓発の気づきを与えるしくみが望まれる
	内容	指定管理計画など5カ年計画を踏まえた事業所としての研修体系と研修計画を確立し、個人別の育成計画策定のしくみを作ることが課題である。そのためには、職員の職務能力向上や将来設計を促すための例えば、自己申告書や振り返りシートなどに基づいて上司と面談するなどのしくみが欲しい。また、マニュアルを整備し臨時職に対して体系的にOJTを実施するしくみを作ること急がれる。
2	タイトル	業務の標準化における手引書類のさらなる整備が望まれる
	内容	日常支援における利用者一人ひとりの食事・排泄等の介助マニュアルや事故などの緊急時の対応マニュアル等は、サービス向上委員会で検討し、整備している。事業所は、ベテラン職員が多いため、それぞれの豊富な経験によりサービス提供を行っている。しかし、今後は人材育成を念頭におき、新人職員等への研修にも活用できるような、利用者のアセスメントから支援記録のつけ方、評価の基準、個別支援計画書の作成、諸活動の手順等々、標準的な手引書の整備が望まれる。
3	タイトル	給食提供サービスに代わる支援の開拓に期待したい
	内容	事業所は、厨房の設置がなく給食サービスの提供は困難であるため、調理実習で食事を作り食べるという機会を提供している。また、食事介助に関しても尽力している取り組みは確認できる。しかし、利用者の健康の維持及び向上にとって栄養摂取は重要であるため、家族等を交えた栄養に関する知識の習得の機会を提供する等、食事提供サービスに代わる支援の開拓に期待したい。

《全体の講評》

児童デイサービス

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	新体系に向けた意欲的な新サービス開発と開かれた施設づくりと地域資源の活用がなされている
	内容	当事業所は会議室にとどまらず音楽室、パソコンルーム、浴室などの諸施設を地域に開放し広く利用を呼び掛けている。「日中一時支援」や「緊急一時保護」などのサービスを提供する他、市内の保育園を巡回して言語相談訓練を行い早期発見と療育へつなげる取り組みや市内の学校の体育館を利用したスポーツレクリエーション教室開催とスポーツボランティアの育成を行うなど、施設内にとどまらず、外部社会資源も活用した意欲的なサービスの開発と提供が行われている。また、各種団体の相互交流を深めるため地域懇談会を開催している。
2	タイトル	サービスの開始に当たって利用者等に説明する重要事項等を文書以外にパワーポイントデータを用いてわかりやすく説明している
	内容	サービスの開始に当たって利用者等に契約内容・基本的ルール・重要事項・活動・支援状況等について十分な理解の上で同意を得るため、利用のためのパワーポイントデータを作成し、パソコンとプロジェクターによる視覚的手段を用いた説明を行っている。この文書と併用しての説明方法はわかりやすく、利用者の満足度も増すと思われる。また、サービス提供者の説明責任を果たしていくという姿勢も感じられ、評価できる取り組みである。
3	タイトル	子ども一人ひとりの発達に合わせたプログラムを作成している
	内容	個々の子どもの特性を把握し、発達段階等に合わせた目標を設定している。クラスは、体力的に配慮が必要で小さな集団が適性であるクラスと体力的な配慮を必要とせず、活発な活動を中心としたクラスの2つに分けている。活動は、ウォーミングアップを兼ねた自由遊びや集団遊びの他、小麦粉粘土等を使った感触遊び、トランポリン等の感覚遊び、プール等の体育遊び、制作や絵画等の机上の遊びと、子どもの発達状態に合わせた内容に取り組んでいる。その際、子どもが意欲的に取り組めるよう声かけ等に配慮している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員に自己啓発の気づきを与えるしくみが望まれる
	内容	指定管理計画など5カ年計画を踏まえた事業所としての研修体系と研修計画を確立し、個人別の育成計画策定のしくみを作ることが課題である。そのためには、職員の職務能力向上や将来設計を促すための例えば、自己申告書や振り返りシートなどに基づいて上司と面談するなどのしくみがほしい。また、マニュアルを整備し臨時職に対して体系的にOJTを実施するしくみを作ることにも急がれる。
2	タイトル	業務の標準化における手引書類のさらなる整備が望まれる
	内容	事故等緊急時の対応、食事・排泄等の日常支援に必要な個別介助マニュアルは、サービス向上委員会で検討され、順次整備されている。一方で、フローチャートを活用した手引書の作成、利用者アセスメントから支援計画の作成要領、支援記録のつけ方など、記録類の記載要領、評価基準、決定プロセス、活動メニューの実施要領の作成など、サービスの向上のベースとなる業務の標準化のための手引書類の整備が必要と思われる。
3	タイトル	子どもの食育に関する情報提供や学びの機会が望まれる
	内容	園は、児童デイサービスという特性から昼食は子どもが弁当を持参している。保護者の手作りの弁当は、愛情を育めるという利点がある一方で、ややもすると、子どもが食べられる内容に偏る危惧もある。幼児期の食事は、心身の発達や情操の上でも重要と思われるため、栄養に関する情報提供や学びの機会を取り入れていくことが望まれる。

平成20年度 評価結果報告

フィードバックレポート

『小平市立あおぞら福祉センター』

NPO法人福祉経営ネットワーク

《全体の講評》

知的障害者通所更生施設

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	地域交流を推進する一貫した姿勢で成果を上げている
	内容	当事業所が掲げるノーマライゼーションの理念のもと、地域諸団体や個人との活発な交流を推進している。見学者に配布する冊子「見学の皆様へ」は内容が充実しており、見学者や実習生だけでなくボランティアにも配布している。施設開放の活動のほか、市民に対して各種講座を開催したり、年2回のお祭り、職員による地域の安全パトロールや災害時の自治会との相互支援などを進めている。利用者の活動にも「地域との交流」が課題として位置づけられている。
2	タイトル	利用者一人ひとりの意向把握に努め意向を反映させた個別支援計画を作成している
	内容	利用者自身を理解し把握するために、フェイスシートに個別の情報を収集し、記載している。また、日常の状況については、ケース記録に記載している。また、利用者及び保護者からの意向把握に努めている。特に、利用者の意向については、写真やカードを活用して意思表示を確認している他、表出が難しい利用者の場合は、日常生活の中の表現や態度から抽出するようにしている。その後、場面毎のアセスメントを行い、モニタリングするというプロセスを経て、利用者一人ひとりの自立を目指した個別支援計画を策定している。
3	タイトル	利用者のニーズを反映し余暇活動の充実を目指して取り組んでいる
	内容	日中活動は4つのグループに分けており、それぞれ、玉暖簾・紙漉き・木工・陶芸の活動の特徴としている。また、利用者のニーズであるリズム活動や調理、外出の機会を取り入れる他、福祉祭等への作品の出展、水泳に関心がある利用者には、外出活動の行き先をプールにする等、個々の利用者の多様なニーズに応えられるよう努めている。さらに、月1回(土)「サタデーサービス」とし調理やミニコンサート等を行う他、「ハッピーバースデー活動」は、利用者職員が個別で外出する等、余暇活動の充実を目的に利用者の生活の幅を広げるよう努めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員の能力評価に基づく個別研修計画策定を進める
	内容	指定管理計画など5カ年計画を踏まえた事業所としての研修体系と研修計画を確立し、当事業所独自の「自己チェックシート」をさらに発展させて、個人別の育成計画策定の仕組みを作ることが課題となっている。また、マニュアルを整備して臨時職員に対する体系的なOJTを確立することも課題である。人事考課等人材マネジメントは法人全体としての課題であるが、人材の育成体系の整備がその前提である。
2	タイトル	ボランティア契約を成文化する
	内容	ボランティアの理念に基づいて、ボランティア活動要領や、案内要綱「ボランティア活動をしてくださる方のために」を策定している。日常の活動および行事に積極的に参加し地域との関係強化を目指している。受け入れに当たってはオリエンテーションを行い、多様なプログラムも用意している。ボランティアの一層の戦力化を進めるためには、ボランティア契約書あるいはボランティア同意書などを交換し位置づけをより明確にすることが望まれる。
3	タイトル	利用者のライフステージを見据えた長期的な目標とその準備を進められたい
	内容	事業所では、利用者の個々の特性を理解し、ニーズの把握に努め、様々な取り組みの中から可能性を引き出そうと個々の自立支援に取り組んでいる。現在、利用者の平均年齢は30代半ばであるが、今後、利用者や家族等の高齢化にともなう生活環境の変化を視野に入れた長期的な目標とその準備を進められたい。



《全体の講評》

身体障害者更生施設(肢体不自由者)

No.		特に良いと思う点
1	タイトル	地域交流を推進する一貫した姿勢で成果を上げている
	内容	当事業所が掲げるノーマライゼーションの理念のもと、地域諸団体や個人との活発な交流を推進している。見学者に配布する冊子「見学の皆様へ」は内容が充実しており、見学者や実習生だけでなくボランティアにも配布している。施設開放の活動のほか、市民に対して各種講座を開催したり、年2回のお祭り、職員による地域の安全パトロールや災害時の自治会との相互支援などを進めている。利用者の活動にも「地域との交流」が課題として位置づけられている。
2	タイトル	個々の利用者へのアフターケアに取り組んでいる
	内容	18ヶ月間のサービスが終了する前には、その後の移行先との引き継ぎを行う他、終了後も事業所との継続した関係は維持できることを伝えている。また、講習会活動(歩塾)を開設しており、講習会への参加を勧めている。これは、自立訓練(機能訓練)のサービス終了後の利用者の居場所づくりとして機能しており、今後はこの取り組みを事業化としていくことを検討しているため、その実現に期待したい。
3	タイトル	利用者一人ひとりの特性を考慮した機能訓練活動メニューに取り組んでいる
	内容	事業所は、障害者自立支援法により新体系事業に移行し、自立訓練[機能訓練]のサービスを提供している。利用者の特性は様々であるため、まず利用者個々の心身の状況を把握し寄り添うことに努めており、個々の意向を反映し、利用(18ヶ月)終了後の自立生活の状況を見据えた個別支援計画を策定している。また、日中活動は、医療機関との連携のもと、理学療法や作業療法、言語療法等の専門的な支援内容に加え、日曜大工・園芸・俳句等趣味の要素を含んだ活動内容を盛り込み、楽しみながら機能訓練ができるようにしている。
No.		さらなる改善が望まれる点
1	タイトル	職員の能力評価に基づく個別研修計画策定を進める
	内容	指定管理計画など5カ年計画を踏まえた事業所としての研修体系と研修計画を確立し、当事業所独自の「自己チェックシート」をさらに発展させて、個人別の育成計画策定の仕組みを作ることが課題となっている。また、マニュアルを整備して臨時職員に対する体系的なOJTを確立することも課題である。人事考課等人材マネジメントは法人全体としての課題であるが、人材の育成体系の整備がその前提である。
2	タイトル	ボランティア契約を成文化する
	内容	ボランティアの理念に基づいて、ボランティア活動要領や、案内要綱「ボランティア活動をしてくださる方のために」を策定している。日常の活動および行事に積極的に参加し地域との関係強化を目指している。受け入れに当たってはオリエンテーションを行い、多様なプログラムも用意している。ボランティアの一層の戦力化を進めるためには、ボランティア契約書あるいはボランティア同意書などを交換し位置づけをより明確にすることが望まれる。
3	タイトル	利用者の意向を把握しニーズにそった講座内容の工夫に期待したい
	内容	事業所では、市内在住の身体が不自由な方や外出機会の少ない高齢者向けに「歩塾(カラオケ教室・陶芸等)」という講座を開催している。これは、通所の利用を終了した利用者がその後も継続的に事業所へ関われる場として活用できるようになっている。現在は、レクリエーション的な要素が主流であるが、今後は、退所する前の利用者にとどのようなアフターケアがあるとよいか等意向を把握して、アフターケアの位置づけとして講座内容を考察していくことが望まれる。